

復職支援実務研修の体験記からわかったこと ～長期離職者が復職に必要なこと～

公益社団法人 神奈川県理学療法士会 ライフサポート部

■ 目的

私達は復職希望の理学療法士（以下PT）を対象に、臨床現場での研修を実施している。この研修の体験談を振り返ることで現職では気づきにくい長期離職者の復職に関する課題の一端が垣間見られた。今後の復職支援事業に生かせると考え、体験談をまとめた。

■ 方法

対象：2009年～2016年度の7年間に実施した研修参加者6名のうち、承諾を得て体験談を依頼できた5名
分析方法：①研修後のアンケートを集計した
②体験談の文章を要素ごとに分けて分析した

*発表にあたりヘルシンキ条約に則って対象者に説明し、同意を得た。

復職支援実務研修の概要

- 目的：実際の現場で見学や実地の研修をすることで、復職につなげる事業です。
対象者：離職中のPT（離職理由は問わない）
研修期間：1日（5時間）～5日間
研修施設：研修希望者と施設側の都合で、日程や時間帯を調整
研修施設：本会会員の所属する施設で、本人の希望する職域や地域から検討（協力施設は14施設が登録）
研修内容：研修希望と施設側の受け入れ態勢によって相談の上決定
施設見学、臨床の一部体験（施設によっては不可）、現在の制度の説明など
参加費：1日につき1,000円
施設使用料：1日10,000円
保険：損害保険（活動中の事故でスタッフ・本人の傷害に対応）
協会の賠償責任保障制度（任意保険）

■ 結果

参加者の背景

- 年齢：30～40歳代 ●性別：全例女性
- 離職理由：結婚・出産・子育て→4人
その他→1人
- 離職までの就業期間：6～15年（平均9.2年）
- 離職期間：4～12年（平均7.5年）
- 環境：全員が離職中に転居を経験
→地域の情報、協力者がいない状態

研修先6施設（研修期間）

- 急性期病院（1日×5）
 - 回復期+通所リハ+訪問リハ（1日×3）
 - 回復期病院（半日×5）
（老健（半日×5）
 - 老健（1日×2.5）
 - 訪問リハ（1日×5）
- *具体的な研修内容は、別紙の体験談をご参照ください

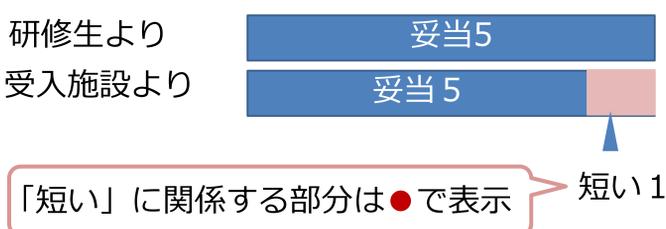
研修前の不安

- 仕事をしながらの生活イメージができない 5
（自分の体力が心配、家族への影響が心配）
- 子育てとの両立しながらできる仕事があるのか 4
- 現状の知識と技術で仕事ができるのか 5
（今どきの働き方、求められることなど
実際の臨床現場の変化を知りたい）

研修で得たこと

- 現場のスタッフの姿をみて 「PTの魅力が再確認できた」 5
- 実際に患者さんと接して 「知識や技術のなさは働きながら補いたい」 5
- 実際に研修に通ってみて 「家族が外で働くことに思いのほか協力的だった」 2
- 現場のスタッフの話を聞いて 「パート勤務でないと難しい」 3
現場を見て 「就職先の就業条件について事前に情報収集が必要」 3
「具体的な課題が明確になった」 5

研修期間の妥当性（非常に短い～非常に長い）



困ったこと、要望

- 研修生より
- 研修生の情報が施設側に十分伝わってなかった 1
 - 基本動作や歩行練習の介助が不安だったので、少しでも練習できればよかった
研修に出れる時間がとれず、お願いできなかった 1
 - 特になし 3
- 受入施設より
- 受け入れ準備が難しかった 3
 - 主催者側より研修内容の具体的指示、指導がなく
全て施設側の裁量となること 1
 - 期間が短かったため、部分的な見学しか提供できなかった 1
 - 事前の情報が不十分だった 1
 - 特になし 3

復職への自信（大変もてた～全くもてなかった）



研修後の復職状況



■ 考察

長期離職者の復職における問題

- 家族や自分の生活が変化すること
- 働く自分をイメージできないこと
- 知識・技術面の不安

復職に向けて実務研修でできること

- 復職後の疑似生活
- 実際の利用者やスタッフとの接触
経験のある領域で数日間、同じ施設での研修を推奨
実際に患者さんに話しかけて情報収集、血圧測定、一緒に歩くなど、リスクの高い実習をしなくても、これまでの経験が現職だった時の感じを思い出しやすい。
- 最新情報の提供
制度、疾患の治療、地域の様子、働き方など

研修の目標

- 家族を含めた具体的な課題がわかる
- 自分の働ける条件がわかる
- 足りない知識や技術は働きながら補えると思える
- 周囲の状況を知ることができる
- PTの仕事がしたいと思える